

らららん11号



2018. 11. 16

個性爆発!! のだっこアート!!

11/7・11/8の2日間、2階の4、5歳児のクラスで“のだっこアート”が行われました。それぞれのクラスでは、いろいろに工夫された取り組みが行われ、例年の作品展とはひと味違う内容になっていました。今回は、それぞれが作りたいものが大切にされ、個人ごとの作品だったり、みんなで協力して自分たちが今、作り上げたいマイワールドが出来上がっていました。「自分なりの豊かな表現」をめざし、完成させた作品群は、子どもたちの作品に込めた気持ちがよく伝わってきました。私たちは、作品を作ることを第一の目的とするのではなく、先生は子どもたちと幾度も幾度も話し合い、子どもたちの手で協力して作るものにしたいと考えました。



きくぐみのタケコースターづくりの話し合いのドキュメンテーションと完成したタケコースターでの遊び。

今回、各クラスでこれまでの取り組みを、ドキュメンテーションという形で掲示しました。ドキュメンテーションは、遊びや生活の中での子どもの育ちの変化を、写真を加えてわかりやすくしたものです。この度は、子どもたち自身が“のだっこアート”にむけて夢中になって取り組んだことや完成するまでに様々に起こった葛藤などを一人ずつが試行錯誤しながら解決していく過程を大切にしてきました。そこでの一人一人の学びと育ちを保護者の皆さんと思いを共有していただけるよう掲示しました。担任もこのことをていねいに解説してくれました。

ある先生は「自分たちの作りたいものがはっきりしていたので、みんな意欲的だった」と話してくれました。また「作ったものでよく遊ぶので、作品を展示すると何度も破れ修復が大変だった」という声も聞きました。作ったものが遊びで使われるということは、それだけ子どもたちのそばにある作品なのです。ケースの中に飾ってあるのではなく、手にとって遊ばれることで作品は輝くのです。まるでトイ・ストーリーのウッディのように。



ゆりのサファリは子どもたちの発想がすごい。



すみれのおかしの家はみんなその中で遊ぶ。

この2日間、多くのご家族の皆さんに足を運んでいただきました。有り難うございました。嬉しそうに説明する子どもたちと、説明を聞きながらいろいろ質問をしている保護者の皆さんが本当に楽しそうでした。腰を痛めて杖をついているお父さんも、熱心に作品をご覧になっていました。やっと歩けるようになったと話されていました。“のだっこアート”への関心の高さを感じました。子どもたちの作品が「家族の皆さんへ明るい希望を与えてくれるんだ」と思いました。今後も、子ども自身が感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむことができるようになってほしいと考えています。



ひまわりの鳥居。みんな頑張ったんだ。



うめのサファリランドはたくさんバスの走ってる。



さくらの「わたしたちのまち」はドキュメンテーションを見ると、子どもたちが相談し用紙に道を作り、そこに家を作ったのだ。